

創設初の受賞企業発表！
「ひょうご優良経営賞」（知事賞）3 社、奨励賞（会頭賞）に 6 社に決定！
～平成 24 年 2 月 13 日（月）に「クオリティホテル神戸」で表彰式・講演会を開催～

兵庫県と神戸商工会議所は、平成 23 年度より「ひょうご優良経営賞」を創設し、県内の中小企業を対象に卓越した経営の仕組みを有し、実践している企業を表彰する制度を運営している。

本制度は、公益財団法人日本生産性本部『実効力ある経営』認証評価制度の認証を基準として表彰するもので、このたび創設初となる受賞企業 9 社（賞 3 社、奨励賞 6 社）を決定した。

表彰式は、平成 24 年 2 月 13 日（月）13 時 30 分から、クオリティホテル神戸（神戸商工会議所東館）で開催する。

当日は、表彰式のほかに、神子原木のブランド化などにより限界集落活性化に成功された石川県羽咋市の高野誠鮮氏を講師として招くほか、受賞企業によるパネルディスカッションを開催する。

■ 受賞企業

◆ひょうご優良経営賞（兵庫県知事賞）…3 社

	会社名	代表者名	所在地	従業員数	認証結果
1	株式会社 ユーシステム	佐伯 里香 氏	神戸市	23 名	「上級」認証 (全国初)
2	有限会社 共立サービス	三宅 隆宏 氏	加古川市	13 名	「継続」認証
3	飾東電機 株式会社	加藤 奉文 氏	姫路市	103 名	

◆ひょうご優良経営奨励賞（神戸商工会議所会頭賞）…6 社

	会社名	代表者名	所在地	従業員数	認証結果
1	株式会社 伍魚福	山中 勸 氏	神戸市	65 名	「導入」認証
2	国際ライフパートナー 株式会社	徳田 英治 氏	神戸市	212 名	
3	有限会社 システムリースA	栄喜 俊夫 氏	神戸市	15 名	
4	株式会社 フューチャーフィッシュ	津森 修 氏	神戸市	2 名	
5	有限会社 プロシード	村山 力 氏	神戸市	25 名	
6	株式会社 朋裕アトラス	田中 彰 氏	神戸市	2 名	

■ 表彰式及び講演会

日 時 2 月 13 日（月）13 時 30 分～17 時 00 分

場 所 クオリティホテル神戸 16 階 「バルセロナ」

内 容 〔第 1 部〕表彰式（ひょうご優良経営賞、ひょうご優良経営奨励賞）

〔第 2 部〕基調講演 「限界集落脱却への道のり

～ローマ法王献上米！神子原木に学ぶブランド戦略」

石川県羽咋市農林水産課ふるさと振興係 課長補佐 高野誠鮮氏

〔第 3 部〕パネルディスカッション

ひょうご優良経営賞受賞企業 経営者等

■ 添付資料

- (1) 資料 1 「ひょうご優良経営賞」について (資料作成：神戸商工会議所)
- (2) 資料 2 「認証評価企業の概要と評価理由」 (資料作成：公益財団法人日本生産性本部)
- (3) 資料 3 『実効力ある経営』認証評価制度について (資料作成：公益財団法人日本生産性本部)

以上

【お問い合わせ先】

◆ひょうご優良経営賞

神戸商工会議所 経営支援センター (藤本・住谷・平井) Tel : 078-367-2010 / Fax : 078-371-3390

◆『実効力ある経営』認証評価制度

(公財)日本生産性本部 経営品質推進センター(柳本・布施) Tel : 03-3409-1117 / Fax : 03-3409-1167

「ひょうご優良経営賞」について

1. 概要

「ひょうご優良経営賞」は、県内中小企業を対象に、卓越した経営の仕組みを有し、実践している企業を表彰し、経営品質の向上を支援することにより、県内企業の競争力を強化するとともに、経営力の向上を図ることを目的として、平成23年度から兵庫県と神戸商工会議所の共催にて実施しています。

公益財団法人日本生産性本部が推進する『実効力ある経営』認証評価制度と連動する中小企業参加型の表彰制度です。

※『実効力ある経営』認証評価制度

「経営品質向上プログラム」の考え方を参考に、中小企業でも取り組みやすく、効果性を確認しながら経営革新に取り組むためのツールとして開発された「マネジメント強化プログラム」を活用しています。認証レベルは、「導入認証」「継続認証」「上級認証」の3段階です。経営の質を高めながら認証レベルを上げていくことで、「日本経営品質賞」にチャレンジするための経営基盤の強化が図れます。

2. 目的

県内中小企業を対象に卓越した経営の仕組みを有し実践している企業を表彰し、経営品質の向上を支援することにより、広く県内企業の競争力を強化するとともに経営力の向上を図ることを目的としています。

3. 対象者

県内に事業所を有する中小企業で、優良な経営の仕組みを公表できる者

4. 審査方法

公益財団法人日本生産性本部の『実効力ある経営』認証評価制度を活用します。

5. 表彰対象

審査の結果、一定基準以上の優れた経営の仕組みを有する企業を表彰します。

6. 研修会

「ひょうご優良経営賞」への申請を目指す中小企業経営者の方を対象に次の講座を設けています。

- ・神戸商工会議所…KCCI 経営革新塾 戦略実践コース
- ・日本生産性本部…マネジメント強化プログラム「ステップアップコース」

2011 年度上期『実効力ある経営』認証評価企業の概要と認証理由

<上級認証>

商号	株式会社ユーシステム
所在地	兵庫県神戸市中央区御幸通 4-2-15 三宮米本ビル 4F
代表者	代表取締役 佐伯 里香氏
資本金	1,000 万円
従業員数	23 名
事業内容	システム受託開発、WEB 制作、人材派遣、コンテンツ制作
認証理由	3 年間のマネジメント強化プログラムへの取り組みを通じて、顧客価値を起点とした経営基盤が確立している。また、「早い、安い、柔軟、安全」という価値を目指しており、特に受注前の顧客対応の速さが優位性を創りだしている。これらの取り組みを踏まえ、継続的なマネジメントの改善が繰り返され、高い成果を得られる状態にある組織として、「上級」認証レベルにあると判断した(昨年度は「継続」認証)。

<継続認証>

商号	有限会社共立サービス
所在地	兵庫県加古川市野口町野口 116-1
代表者	代表取締役社長 三宅 隆宏氏
資本金	1,500 万円
従業員数	13 名
事業内容	自動車整備、钣金塗装、リース車両のメンテナンス、新車・中古車販売
認証理由	有限会社共立サービスは、リースメンテナンス、一般車検、钣金・塗装それぞれの顧客の車両利用の特徴をよくとらえて安心して修理を任せただけの顧客価値として明確に示している。また、戦略の策定では、認証評価を通じての成功体験をもとに成果が上がった戦略テーマに継続的に取り組んだ。これらを踏まえ、マネジメントの実践と学習が継続的に行われている組織として、「継続」認証レベルにあると判断した(昨年度は「導入」認証)。

商号	飾東電機株式会社
所在地	兵庫県姫路市飾東町佐良和 425-1
代表者	代表取締役社長 加藤 奉文氏
資本金	1,000 万円
従業員数	103 名
事業内容	電子機器組立
認証理由	飾東電機株式会社は、下請け組み立てとして、顧客から明示された QCD を守るという価値から、「顧客の試作段階から量産化へのスピード、変動に対する納期遵守、顧客の品種拡大への柔軟な対応」という顧客視点の QCD 価値を見出した。そして、この価値を実現するために、戦略として「手組みのアウトソーシング」「新製品対応における生産工数改善」に焦点を当てた。これらを踏まえ、マネジメントの実践と学習が継続的に行われている組織として、「継続」認証レベルにあると判断した(昨年度は「導入」認証)。

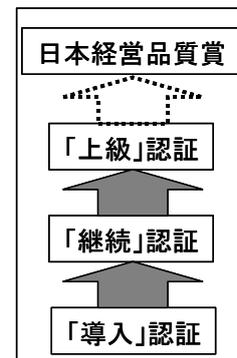
『実効力ある経営』認証評価制度について

1. 『実効力ある経営』認証評価制度とは

中小規模企業を対象に、「マネジメント強化プログラム」を実践し、これまでの経営を振り返りながら課題解決のための実効計画を経営者自らが策定、6か月間の計画進捗結果と合わせて第三者（認証評価チーム）が評価し、最終的に確実な計画の達成と成果を上げる企業を、『実効力ある経営』委員会が認証評価する制度で、財団法人日本生産性本部が2009年12月に創設。本制度は、経営課題内容とその成果に応じて、「導入」・「継続」・「上級」の3段階を設定している。最上位の「上級」認証後は、同本部が行う日本経営品質賞や地域経営品質賞への挑戦を促す。

* マネジメント強化プログラムとは、日本生産性本部が独自に開発した、①自社経営課題の振り返り、②実効計画の策定とコミットメント、③経営課題解決への実践、までの一連の経営改善プログラム。

<認証の位置づけ>



2. 『実効力ある経営』認証評価体制

(1) 認証評価委員会

「実効力ある経営」を認証するための評価組織。「認証評価グループ代表」から全結果報告を受け、認証を決定する。

メンバーは以下の通り。

委員長:小笠原 泰氏(明治大学 国際日本学部教授)

委員:立松 裕之氏(日本商工会議所 中小企業振興部長)

委員:角田 信之(日本生産性本部 理事・コンサルティング部長)

(2) 認証評価グループ

「実効力ある経営」認証のための評価者集団。役割に応じて、主任認証評価者と認証評価者に区分し、主任評価者の3-5名で「認証評価グループ代表」の役割をもつ。

認証評価は、2名(主任認証評価者と認証評価者)でチームを構成し、申請企業から提出された「振り返り結果」、「実効計画とコミットメント内容」、「5か月間の計画進捗結果」を読み込み、フォーマットに基づいて主任評価者がチームとしての「認証評価フィードバックレポート」を作成し、「認証評価グループ代表」に提出する。

* 「導入」・「継続」は書類評価のみ。最上位の「上級」は、書類評価に加えて現地評価を行う。



3. 『実効力ある経営』認証評価の主要プロセス

(1) 経営者自らが、過去を振り返る

- ① 3年間の重要な企業業績の推移を振り返る
- ② 重要な活動に焦点をあて、マネジメント(計画・実行・評価・改善のPDCA サイクル)を評価する

(2) 経営者自らが、マネジメント・戦略の課題を発見する

- ① 顧客にとって重要な価値を生む5つの活動に焦点をあて、マネジメント・戦略の課題を発見する

(3) 経営者自らが将来を創造する

- ① マネジメント・戦略の課題を解決する実効計画(いつまでに・どのような方法で・何を達成するのか)を作成する

(4) 改善活動を実施する

- ① 作成した過去の振り返りから実効計画までの内容を、インターネットの定型フォームに登録(コミットメント)し、実効計画の進捗状況を毎月登録する(進捗レポート)。
- ② 実施期間は5か月から1年を継続的に行う

(5) 認証評価チームがこれまでの改善活動を評価する

- ① (1)－(4)の改善活動を、2名の認証評価チームが、10項目の認証基準に照らして評価する
- ② 認証評価チームは、さらなるマネジメント力向上のために、次年度以降の取り組みの方向性を示すフィードバックレポートを作成する

(6) 『実効力ある経営』認証評価委員会が認証を決定する

- ① 認証評価チームによる評価をもとに、最終的に「導入」・「継続」・「上級」の3段階の認証を行う

4. 『実効力ある経営』認証評価基準一覧

項	基準	基準の意味
1	顧客価値の明確さ	新たに作成された戦略に示された顧客ターゲットとその提供価値が明確であり、背景も含めて妥当性がある。
2	課題達成のための戦略有効性、具体性	新たに作成された戦略に示された戦略が、顧客価値実現と整合性がある。妥当性のある分析(SWOT)をもとに作成され、戦略内容も状況を踏まえた具体的なものになっている。
3	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域の効果性	15の活動領域から選択された活動内容が戦略との結びつきが深く、戦略目標達成に不可欠な領域が選択されている。
4	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域間の関係性	15項目の活動領域から選択された3から5の活動項目の組み合わせが戦略目標達成に効果が高いものになっている。製品・サービス価値を高める活動とそれに必要な能力向上という必要な組み合わせが考えられている。
5	実効計画の具体性と実現可能性	実効計画の記述内容が具体的であり、組織の力量を考慮している。月々の進捗状況から判断して、未達成はあっても、その対策が行なわれており、実現可能性が高い実効計画という判断ができる。
6	実効計画のリーダーコミットメントと組織での共有	実効計画の記述内容と達成目標から経営者の実行に対する姿勢が読み取れる。実効計画の実行にあたって、経営者がコミットメントし、計画実行の意味を組織で共有する働きかけが行なわれている。
7	実効計画のマネジメントの日常化	月々の進捗状況の内容から実効計画の実行にあたって、一貫したマネジメントサイクルが日常的に行われている。
8	実効計画のマネジメントプロセス改善	月々の進捗状況の内容から実効計画の実行にあたって、マネジメントプロセスの改善が行われ、より高いマネジメントに向かっている。
9	実効計画の活動目標達成度	設定した実効計画の活動目標が、達成時期に達成している。
10	実効計画による財務成果との結びつきと改善効果	実効計画の達成に対応する形で、重要な経営指標(売上、利益、生産性)のどれかに改善傾向が見られ、実効計画と実行有効性が判断できる。

5. 『実効力ある経営』の各認証レベルと評価領域

認証は、経営課題内容とその成果に応じて、「導入」・「継続」・「上級」の3段階を設定している。10項目のうち、各認証レベルの評価項目は、以下の通り。

項	基準	導入認証	継続認証	上級認証
1	顧客価値の明確さ	○	◎	◎
2	課題達成のための戦略有効性、具体性	—	○	◎
3	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域の効果性	—	△	◎
4	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域間の関係性	—	△	○
5	実効計画の具体性と実現可能性	△	○	◎
6	実効計画のリーダーコミットメントと組織での共有	◎	◎	◎
7	実効計画のマネジメントの日常化	◎	◎	◎
8	実効計画のマネジメントプロセス改善	△	○	◎
9	実効計画の活動目標達成度	△	○	◎
10	実効計画による財務成果との結びつきと改善効果	—	△	○

◎＝必須の評価項目 ○＝加点の評価項目 △＝あればよい程度の評価項目 —＝このレベルでは評価しない項目

(1) 導入認証: 計画したことを確実に実行する力があるかどうかを、評価、認証する

計画したことを確実に組織で実行するためのマネジメントが行われているかどうかを認証のポイント。
この認証レベルでは、戦略内容の質や効果的マネジメントにこだわらず「実践力」に着目。

<評価領域>

1. 製品・サービスの創造

<必須評価項目>

- アクションプランのリーダーのコミットメントと組織での共有
- アクションプランのマネジメントの日常化

(2) 継続認証: マネジメントの実行と学習が継続的に行われているかどうかを、評価、認証する

マネジメントが定着し、顧客価値と実践による学習が行われているかどうかを認証のポイント。
この認証レベルでは、「実践力」だけでなく、「戦略とアクションプランの具体性」に着目。

<評価領域>

1. 製品・サービスの創造
2. 組織と人材の能力向上
3. 戦略や方針の策定
4. 社会的責任と社会貢献
5. 経営者が行う組織規範や風土変革

<必須評価項目>

- 顧客価値の明確さ
- アクションプランのリーダーのコミットメントと組織での共有
- アクションプランのマネジメントの日常化

(3) 上級認証: 継続的なマネジメント改善が繰り返され高い成果を得られるレベルかどうかを、評価、認証する

認証評価項目のほとんどで実現できていることが求められる。

この認証レベルでは、申請組織を訪問して、コミットメント内容の実施状況を複数の評価者が確認する。

以 上